

(報道資料)

平成26年9月22日

## アルマイト加工コスト 電気は2年間で3割増、他資材も高騰が続く

－ 輸送費も急上昇し経営環境は一段と厳しい －

一般社団法人軽金属製品協会（東京都港区、山田浩司会長）は、昨年引き続きアルマイト加工を中心とするアルミ表面処理事業者の経営環境に関するアンケートを実施した。

昨年の調査では、原発停止などによる電力費の高騰、円安の急進展による輸入物価の上昇の影響が大きく見られたが、引き続きその実状を把握するために行ったものである。

その結果、エネルギー価格はこの1年間で電気91%（前年比8%増）、ガス79%（同5%増）、石油95%（同9%増）と、殆どの会員会社で前年に引き続き上昇している。上昇幅は電気13%、ガス11%、石油9%と大幅である。特に電気は、一昨年比では3割近い増加となっている。

各種資材では、製造時に電気を使用する水酸化ナトリウムや塗料、硫酸、染料、ジグの値上がりが多い。さらに、石油高騰の影響で、輸送費は73%が値上がりしており、上昇幅も11%と大きい。包装資材、産廃処理費も前年に比べ上昇した事業者が多い。

会員会社では、電気設備の入れ替えや使用電力の抑制、工程の見直し、資材の再利用などの経費削減努力を行っているが、連続する大幅なコスト上昇に苦しんでいる。増加分の金額は、事業規模や製品分野、処理内容等により異なるが、2億円に達する会員もある。

一方、処理価格への反映は、回答21社中8社が提示済みないし提示予定であるが、浸透度はまだ低く、また、一段の円安により更なる原材料高も予想され、経営環境がますます厳しくなっていることがうかがえる。

同協会では、7月に関係団体と共同で経済産業省に「電力及びエネルギーコストの上昇の影響に対する緩和策の要望」を提出しているが、業界の厳しい状況を改めて訴え、需要先にも現状を認識、理解いただきたいとしている。

アルマイト加工（陽極酸化処理）業は、工業統計によれば、平成20年の259事業所（従業員4名以上）から、直近である平成24年には190事業所と減少している。

(次葉に調査結果の概要)

[本件問合せ先]

一般社団法人 軽金属製品協会 佐藤 TEL. 03-3583-7971

[調査結果の概要]

実施時期 平成26年8月（前年は平成25年5月実施）

対 象 軽金属製品協会 表面処理部会会員（回答21社）

結 果 コストが上昇している事業者の割合(\*1)と上昇率(\*2)（1年前との比較）  
下段カッコ内は前年

品名	割合	上昇率	品名	割合	上昇率
電気（合計）	91% (83%)	13% (14%)	封孔剤	15% (24%)	4% (7%)
（関東地区）	100% (100%)	12% (17%)	水酸化ナトリウム	50% (43%)	7% (12%)
（中部地区）	100% (67%)	11% (9%)	脱脂剤	16% (17%)	5% (9%)
（関西地区）	100% (100%)	16% (17%)	ジグ	38% (35%)	5% (12%)
ガス	79% (74%)	11% (11%)	塗料（電着塗料他）	54% (24%)	5% (10%)
石油	95% (84%)	9% (13%)	産廃処理費	39% (30%)	18% (29%)
硫酸	27% (23%)	6% (11%)	包装資材	47% (35%)	5% (6%)
染料	22% (13%)	5% (5%)	輸送費	73% (20%)	11% (7%)

\*1：回答社中「上昇した」と答えた事業者の割合 \*2：上昇した事業者の平均